

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：23803

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K02108

研究課題名（和文）豪州の文化・教育政策における経済主義的多文化主義と日常的多文化主義の展開

研究課題名（英文）Economic Multiculturalism and Everyday Multiculturalism in Australian Cultural and Educational Policies and Contents

研究代表者

石井 由香 (Ishii, Yuka)

静岡県立大学・国際関係学部・教授

研究者番号：20319487

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：2000年代以降現在までの状況を中心に、豪州において経済主義的多文化主義と日常的多文化主義が「アジア」をめぐる文化・教育政策および文化・教育コンテンツにどう反映しているのかを分析し、この両方の多文化主義のホスト社会の文化的ディスコース、多文化理解への影響を考察した。特に、教育政策における「アジア理解」推進の方向性と初等教育・中等教育における「アジア理解」と教育上の課題、豪州における「アジア理解」の歴史的背景、大学におけるアジア出身の留学生の状況、大学におけるアジア研究・教育の位置づけと動向を中心に分析考察を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

エスニシティ研究、マイグレーション研究において、経済主義的多文化主義と日常的な多文化主義の二つの多文化主義に同時に注目し、この二つの多文化主義の接点となり、市民社会の文化的ディスコースに影響を及ぼすと考えられる文化・教育政策とその内容の分析を行おうとする点は、学術的独自性、意義を持つ。また、「アジア」をめぐる分析は、豪州における新自由主義的利益と内なる多様性の双方に関わり、移民出身国・地域との国際関係、グローバリゼーションと移民受入国における国内政治および社会変容の相互関係の考察に新たな視点をもたらすものである。

研究成果の概要（英文）：This study aims to clarify how economic multiculturalism and everyday multiculturalism have been reflected in cultural and educational policies and contents regarding 'Asia' in Australia since the 2000s. It also aims to consider the impact of both multiculturalisms on cultural discourse and multicultural understanding in the host society. The study focuses on the direction of 'understanding Asia' in educational policy, particularly the contents and agendas of 'understanding Asia' in primary and secondary education, the historical background of 'understanding Asia', Asian international students in Australian universities, and research and education on Asia in Australian universities.

研究分野：社会学

キーワード：多文化主義 オーストラリア アジア 教育政策 文化政策 アジア系オーストラリア人

1. 研究開始当初の背景

(1) 文化的多様性を抱える先進国社会において、多文化主義の変容、危機が叫ばれ、問い直しが行われるようになって久しい。豪州においてもこれは同様であり、たとえば「福祉主義的多文化主義」から「経済主義的多文化主義」への変容(関根 2009)といったとらえ方がされている。

(2) しかし、政治的に多文化主義が変容、また一見衰退したようにも見える一方で、人びとは多文化的日常を生きており、移民・難民との共存と多様性への寛容をいかに醸成するかとの問い、そのための努力の必要性が、少なくともコミュニティ、地域のレベルでは多く共有されている。この日常的な多文化状況とそこにおける人びとの営みは、「日常的多文化主義」といった言葉でとらえ得る。

(3) 豪州の多文化主義の変容と現況を考える場合、この「経済主義的多文化主義」と「日常的多文化主義」の両方の多文化主義の観点からの考察が必要である。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、2000年代以降現在までの状況を中心に、豪州における経済主義的多文化主義と日常的多文化主義が、文化・教育政策および文化・教育コンテンツにどのように反映しているのかを調査分析することにより、この両方の多文化主義が、ホスト社会における文化的ディスコース、多文化理解にどのような影響を及ぼしているのか、あるいは及ぼしうるのかを考察することである。

(2) 考察においては、豪州において経済的な重要性を増しており、国内の多くの移民・難民の出身地域である「アジア」をめぐる、連邦および州レベルの文化・教育政策の内容および文化・教育コンテンツ、大学におけるアジア研究・教育内容および「アジア理解」の推進に関わる社会団体の活動内容を分析対象とすることにより、豪州社会の多文化理解に関わる文化的ディスコース、社会統合に与える影響およびその可能性を把握する。

3. 研究の方法

(1) 文献資料調査。「アジア」をめぐる連邦政府および州政府(ニュー・サウス・ウェールズ州、ヴィクトリア州)の文化・教育政策内容および文化・教育コンテンツに関する資料、大学におけるアジア出身の留学生の受け入れ、国際交流、アジアに関する研究・教育の状況に関する資料、「アジア理解」の推進に関わる社会団体の活動に関する資料を収集した。また、先行・関連研究である著書、論文についても入手した。収集は、国内ではインターネット、所属大学図書館、書店を通じて行った。また2019年9月(メルボルン)、2023年3月(キャンベラ、シドニー)、2023年8月(キャンベラ、シドニー)において現地調査を実施し、文献資料については、国立図書館、ニュー・サウス・ウェールズ州立図書館、ヴィクトリア州立図書館、書店を中心に収集を行った。

(2) 聞き取り調査。2019年、2023年の3回の豪州現地調査の際、それぞれ複数の大学における関係者に研究目的に即した聞き取りを行い、多くの知見を得た。

4. 研究成果

(1) 豪州の初等および中等教育における「アジア理解」について、政策文書および連邦レベルの教育カリキュラムであるオーストラリアン・カリキュラムを分析考察し、関連研究から教育現場における課題を抽出した。豪州では従来教育において州の権限が強かったが、2010年代初頭以降連邦レベルの初めての教育カリキュラムであるオーストラリアン・カリキュラムが公表され、導入されていった。このカリキュラムにおいて、「アジア・リテラシー」はカリキュラム横断的に重要な内容の一つ「アジアと豪州のアジアとの関わり(Asia and Australia's Engagement with Asia)」のなかに位置付けられた。この「アジア・リテラシー」の内容、主に英語教育における「アジア・リテラシー」の反映状況、教育政策および学校における「アジア・リテラシー」への論評の分析により、連邦レベルの政策と現場の教育の間に乖離があること、日常的多文化主義が政策に必ずしも反映されていない状況が浮き彫りとなった。また、教育現場における課題については、アジア系オーストラリア人作家による著作が授業においてどのように利用されているのか、またそこにおける教育上の困難についての指摘が目撃された。

(2) 豪州におけるアジア認識、「アジア理解」の歴史的推移および文脈と関わり、豪州の著名な歴史学者 David Walker 氏の *Stranded Nation* (2019) と *Anxious Nation* (1999) を精読し、考察内容を書評論文として発表した。主な考察対象は *Stranded Nation* で、1930年代末から1970年代までのオーストラリアのアジアへの漸進的シフトとアジアとの関わりにおける自己認識と文化的変化

について歴史的考察を行った著書である。本研究は基本的に 21 世紀、ここ 20 年あまりの状況を分析対象としているが、書評論文執筆を通じて、現在の豪州とアジアの関係性、アジアから豪州への移民とその豪州社会、多文化主義への影響を、歴史的な脈のなかに位置付けることの重要性を深く認識するにいたった。書評論文の機会を得たことにより、本研究の新たな位置づけの方向性を認識し、示すことができた。

(3) 豪州の大学におけるアジア出身の留学生の受入れの動向と、アジア出身の留学生の修学、研究と大学キャンパスにおける学生間の交流の状況について、留学生の受入れに関する政策・統計資料、アジア出身の留学生に関する著書・論文・新聞記事、主要大学における受入れの状況に関する関係者からの聞き取りを主な対象として分析考察を行った。アジア出身の留学生は、グローバル化のなかで豪州の大学にとって経済的に欠かすことのできない重要な存在となっているが、政治・社会的な位置づけについては慎重な検討が必要である。ここでは高等教育のグローバル化の進行状況、豪州がおかれている地政学的状況、「アジア理解」の歴史的推移、留学生をめぐる「国際交流」、異文化間コミュニケーションの実態を理解する必要がある。また、検討を通じて、留学生をとりまく状況は経済主義的多文化主義と日常的な多文化主義の双方に関わるものであることがあらためて理解された。今後も考察をさらに進め、研究成果発表につなげていく。

(4) 大学におけるアジア研究および教育の位置づけと動向について調査分析を行った。豪州のアジア研究・教育については、豪州アジア学会(Asian Studies Association of Australia)が報告書を 1980 年から約 10 年ごとに発表している。2023 年に出された最新の報告書の内容を過去の報告書を参照しつつ検討した。また、同じ 2023 年に、豪州人文科学アカデミー(Australian Academy of the Humanities)が豪州の中国に関する知識力(knowledge capability)をめぐり、大学の教育・研究と将来のニーズに関する報告書を公表した。この報告書についても内容を精査した。関連研究についても著書、論文を収集し、内容を整理した。さらに、アジア研究・教育で実績がある、もしくは注目される動きを持つ大学を対象に、ウェブサイトを通じて資料を収集調査した上で、ニュー・サウス・ウェールズ州、ヴィクトリア州、首都キャンベラの複数の大学において関係者から聞き取りを行った。特に 2023 年 8 月の現地調査では、前述の 2 つの報告書の内容を踏まえた聞き取りを実施することができた。これらの調査による資料、データにより、現在の大学におけるアジア研究・教育の内容、また現在の課題の特質について、(3)のアジア出身の留学生に関する考察とも関わらせながら、経済主義的多文化主義と日常的な多文化主義の双方の観点から分析を進めた。この内容についても、今後の研究成果発表に向けて考察を継続していく。

引用文献

関根政美, 2009, 「オーストラリア多文化主義の歴史的発展とその変容—共生から競生へ」
石井由香・関根政美・塩原良和 『アジア系専門職移民の現在—変容するマルチカルチュラル・オーストラリア』慶應義塾大学出版会, 21-68.

Walker, David, 2019, *Stranded Nation: White Australia in an Asian Region*, Crawley: UWA Publishing.

Walker, David, 1999, *Anxious Nation: Australia and the Rise of Asia 1850-1939*, St Lucia: University of Queensland Press.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Yuka Ishii	4. 巻 34
2. 論文標題 Transformation of the 'Mutual' Recognition between Australia and Asia in the Era of the White Australia Policy: Geopolitics, Human Exchange, and Images in the Asia-Pacific Region	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 オーストラリア研究	6. 最初と最後の頁 30-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20764/asaj.34.0_30	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Yuka ISHII
2. 発表標題 Understanding Asia in Australian Education
3. 学会等名 2019年度 オーストラリア学会 30周年記念国際大会（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>一般向け講演： 石井由香「多文化社会オーストラリアで『アジア系オーストラリア人』であること」関西外国語大学国際文化研究所・第6回IRI言語・文化コロキウム公開講座、2020年1月25日。</p>
--

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------